

平成22年12月1日発行

会員各位

# 協会だよりー216(12月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

## <トピックス>

- 創立三十五年記念祝賀会も、皆様のご協力で無事終了いたしました。総勢78名のご出席をいただき、経産省化学課長様、触媒工業協会事務局長様より、ご丁寧な祝辞をいただき、第七代会長を務めた、清水進様の乾杯の音頭で、以後の歓談が大いににぎわいました。



- 一. 協会よりのお知らせ  
【実施済事項】
- 二. 会員の変更事項(協会担当者の交代)  
【予定事項】
- 三. 創立三十五年祝賀会
- 四. 寄贈文献
- 五. 事務局より(十二月度の予定)
- 六. 【雑学】発祥の地(私学揺籃の地) VI

## 1. 協会よりのお知らせ

### 【実施済事項】

- ① 協会だよりー215 (11月号) をメール&郵便で送信 (11/1)
- ② 平成22年度第六回運営委員会  
日時: 11月19日(金) 15:30~17:00  
場所: 堺化学工業㈱会議室  
議題: 第208回月例会(講演会)の詰め、最終創立記念祝賀会準委員会業務。
- ③ 創立35周年記念祝賀会  
日時: 11月24日(水) 18:00~19:30  
場所: 如水会館・富士の間(3F)
- ④ JOGMEC調査中間報告  
日時: 11月26日(金) 16:30~17:30  
場所: 協会事務所  
議題: 調査受託機関・神鋼リサーチ社、JOGMECによる中間報告。

[予定事項]

① 第208回月例会の講演会・講師訪問。

日時：未定。月例会(講演会・新年会)の日は1月下旬～2月上旬で調整中です。

訪問者：斉藤運営委員(日揮触媒化成株)、佐藤運営委員(日誠金属株)、小林専務理事の3人予定。

2. 協会担当者の交代

【株アサカ理研殿】

- 旧：阿部 政市殿 ⇒ 新：布沢 剛殿 (貴金属事業部営業Gr長 (課長職))

社内人事異動により担当者を変更します。布沢殿は今まで協会の行事に数回出席しています。今後ともよろしく願いいたします。

3. 創立三十五年記念祝賀会

平成22年11月24日(水)午後6時より、神田一ツ橋の如水会館・富士の間にて総勢78名(来賓8名、協会OB12名、会員会社より57名、事務局1名)の参加を得て開催されました。

司会は武田有司・実行委員長(石福金属興業株)の担当により、細田顕治副会長(松田産業株)の開会の辞を手始めに、大井滋会長(JX日鉱日石金属株)の挨拶がありました。「経済産業省、触媒工業協会、新金属協会の皆様、OBの皆様、マスコミの皆様、ご臨席いただき誠に有難うございます。35年前に設立され今日に到ったのも皆様のお陰でございます。今日のメタルの位置づけ、我が国の生産技術も捨てたものでは有りません。金属資源は鉱石が基本であります。いまや資源リサイクルは国内原料だけではなく海外からも持ってこなくては行けない状況です。協会の今後について皆様のお知恵をいただきたく、本日の挨拶とさせていただきます。ご静聴有難うございます。」続いて触媒工業協会の中本事務局長様よりご祝辞をいただいた。

国会対応のためご登場が後になりましたが、経済産業省製造産業局化学課坂口課長様よりご丁寧なご祝辞をいただきました。お二人からは、製造側を動脈産業とすると、リサイクル側は静脈産業に例えられ、今日では、メタル資源産出国の資源ナショナリズム、輸出制限が現れ、特にレアアースの確保が、触媒製造、電子産業、自動車産業の生命線になっています。

レアメタル確保の補正予算を通すべく頑張っていますので、皆様のご協力も・・・



大井会長の挨拶



経産省化学課坂口課長の祝辞



触媒工業協会中本事務局長の祝辞



清水進様の乾杯の音頭により、ご歓談の時間になりました。一時間半の歓談時間もあっという間にすぎ、宮崎隆史副会長(榊徳力本店)による、三本締めで式典も終了となりました。ご参加の皆様、有難うございました。

4. 寄贈文献

- レアメタルニュース No. 2466(12月1日号)(アルム出版社)(11/30)

5. 事務局より (12月度の予定)

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	11/29	11/30	1	2	3	4
	×	○	○	×	○	×
2週	6	7	8	9	10	11
	×	○	×	×	○	×
3週	13	14	15	16	17	18
	×	○	×	×	○	×
4週	20	21	22	23	24	25
	×	○	×	天皇誕生日	○	×
5週	27	28	29	30	31	1/1
	×	○	×	×	×	×

事務局延べ出勤予定：9日(○；終日、△；半日、×は休日)。

6. 【雑学】発祥の地(私学揺籃の地)VI

前回に引き続き、現在の千代田区に立地した数多くの学校発祥之地より今回は東京理科大学と東京農業大学を紹介いたします。

JR飯田橋駅からメトロ九段下駅までの目白通りは千代田区によりサンポーロと名付けられ散歩道として学校だけではなく、各施設、産業の発祥之地とした石碑が建立されています。

【東京理科大学】

記念碑設置場所：千代田区飯田橋二丁目（側には首都高5号池袋線が通っています）目白通りより西神田三丁目方面に向かい、首都高の手前の小公園前の歩道に石碑があります。



- 碑文は以下の通りです。



東京理科大学 発祥之地  
 明治十四年(1881)東京理科大学の前身である東京物理学講習所(同十六年東京物理学校と改称)はこの地、麹町区飯田町四丁目一番地で設立しました  
 現在は新宿区神楽坂一丁目三番地にあります

夏目漱石の小説「坊ちゃん」の主人公も、東京物理学校の卒業生となっています。坊ちゃんは愛媛県松山の中学校教師となり、赤シャツや野太鼓、マドンナを巡って大立ち回りをした内容を覚えていることと思います。

【東京農業大学】

記念碑設置場所：千代田区飯田橋四丁目8(飯田橋駅を目白通りに出て右側すぐの所)

碑文は以下の通りです。



東京農業大学開校の地  
 明治二十四年(二八九二)、この地、旧東京市麹町区飯田町河岸十番地に、東京農業大学の前身、育英農農業科が徳川育英会により設置されました。初代豊主は榎本武揚でした。明治三十五年(一八九二)現在の中央線である甲武鉄道の新設工事、また農場用地取得のため大塚窪町に移転しました。

1925年に大学令による「東京農業大学」に昇格し、当時農学部を有する大学は、北海道帝国大学、東京帝国大学、京都帝国大学、九州帝国大学、東京農業大学にしか存在しませんでした。私学では唯一の農学部を持つ大学でありました。その後、数次の校地移転により、1946年、第二次大戦後、世田谷区の現在キャンパスに移転しています。

【文責：専務理事】